

平成29年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立太秦中学校

4月18日に、本校3年生189名を対象に実施された「全国学力調査」についての結果分析を御報告します。本調査は国語と数学の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されておりますので、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学）

国語A・B、数学A・Bともに、平均正答率が全国平均より上回っていました。授業や家庭学習に対して前向きに取り組んでいる成果が出ていると考えます。しかし、B問題については無解答率が目立つ問題も見られました。全体的に平均よりはできていますが、最後まであきらめずに問題に向き合う姿勢をより一層育んでいきたいと思います。

※A問題・・・主に知識を問う問題 B問題・・・主に活用力を問う問題

国語科より

《全国平均よりも上回った点》

・言語の知識に関する設問 ・文章の構成を工夫して分かりやすく書く設問 ・話すこと、聞くことに関する設問 ・表現の仕方について捉え、自分の考えを書く設問

《全体を見て～これからの課題～》

課題としては、書いた文章についての助言を基に自分の表現を見直す設問や、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する設問である。課題解決のために、作文を書き、互いに添削したり、一層多くの文章を読む機会を増やし、描写に注意して内容を深く読み取ったりする練習をしていきましょう。また、無回答率も減らしていく必要があります。

数学科より

《全国平均よりも上回った点》

・数量や図形などについての知識、理解 ・数学的な技能 ・式が与えられていて解くだけの問題や、具体的に作業が指示されている（例：平行移動した図をかきなさい。）問題

《全体を見て～これからの課題～》

式が表す意味を問われる問題や、問題そのものが文章記述となっており頭の中で《文章⇒数式》に変換する必要のある問題については、正答率が低かったです。普段の学習へ取り組む姿勢として、自分で過去の学習内容を調べたり、教科書に載っていないか確認したり、解答のヒントはどのように書かれているかを探してみたり（そのまま写すのではなく）して、自分でどう取り組むかを考えながら学習に向かう必要があると考えられます。「知識・理解」や「技能」の観点の正答率が高いということは、計算処理などではできるということです。あとは、どうやって問題に対して考えていくかを追求していくことで、数学の力は飛躍的に上がるものと期待できると考えます。

生徒質問紙調査から

今回の調査では、国語・数学の学力調査と併せて、基本的生活習慣・規範意識及び自尊感情についてのアンケートがありました。結果につきましては、どちらにつきましても全国平均とほぼ同じ結果でした。

中でも特に顕著であった項目は、「普段、1日あたりどれくらいの時間テレビを見たり、ゲームをしたり、携帯等で通話やメールやインターネットをしますか。」との質問に対しての時間数が全国平均よりも上回り、「土曜や日曜など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。」との質問に対する時間数は下回りました。家庭で学習に向かう時間や余暇を過ごす様子についての傾向がみられる結果となりました。また、「家で、計画を立てて勉強をしていますか。」との質問に対しても全国平均を下回る結果となりました。これらから、家庭では目先の学習課題に追われる生徒が多く、計画性が弱く行き当たりばったりで取り組んでしまっている様子が浮かんできます。決して全てが予定通りにいくわけではありませんが、先を自分で見通してプランニングし実行すること。また、プランを修正しながらも目標に向かって進んでいく力は、社会へ出てから最も必要とされる力の1つです。目の前に分かりやすい課題がないと進んでいけない、というのではなく、もっと長いスパンで物事を見通す力を付けていくことを意識したいものです。

しかし、「国語・数学の授業で学習したことは、将来、社会へ出たときに役に立つと思いますか。」という質問に対しては、全国平均を若干上回っており、学習することの重要性は感じているようです。

頭で理解していることと、実際の行動とが一致していないことが最大の問題であるように感じる結果となりました。

その他に気になる質問項目として、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。」という項目に対して、全国平均を大きく下回る結果となりました。今後、様々な考えを持つ人たちと折り合いを付けながら社会を乗り越えていく力をつけるためには、『人の話を聞く』ということは基本となります。自分の主張をする前に、まずは人の話をきちんと聞き、何をすべきかを判断しましょう。



保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着しているものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果には、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと環境づくりにご協力をお願いいたします。